

- 日 時 令和8年7月9日（木）14:00～16:30
- 場 所 芽室町役場3階 委員会室
- 出席者 太田会長、青木委員（職務代理者）、廣江委員、小林委員、
福井委員、丸山委員
- 事務局 （都市経営課）橋本課長、山田主査
- 傍聴者 なし
- 講 師 北海道学園大学工学部建築学科 岡本教授
- コンサル シン技術コンサル 清水氏、黒澤氏

1 開 会

都市経営課長から開会及び委員の2分の1以上の出席により会議が成立したことを報告。

2 会長挨拶

3 議 件

（1）芽室町都市計画マスタープランの見直しについて

資料1

（太田会長）芽室町都市計画マスタープランの見直しについて説明をお願いします。

（山田主査）資料1を説明。

（太田会長）質疑等はないか。

質疑等なし。

（2）芽室町立地適正化計画の見直しについて

資料2

（太田会長）芽室町立地適正化計画の見直しについて説明をお願いします。

（山田主査）資料2を説明。

（太田会長）質疑等はないか。

（青木委員）芽室公園の一部が居住誘導区域に含まれているが、これは平成31年策定当初からこのような区域であったか。

（山田主査）策定当初は芽室公園は居住誘導区域に含まれていなかったが、国と連携してプールの建設を進めるために令和2年度に計画の見直しを行い、芽室公園運動広場を都市機能誘導区域に含めた。

（青木委員）令和2年度に見直しをしているのであれば、概要版2ページ目の計画の期間と範囲に、見直しをした履歴を明記するのか。

（山田主査）そのとおり。

（3）見直しのスケジュール

資料3

（太田会長）見直しのスケジュールの説明をお願いします。

（山田主査）資料3を説明。

（太田会長）質疑等はないか。

質疑等なし。

4 その他 研修会

①基調講演「人口減少時代のまちづくりと空き家活用の可能性」

北海学園大学工学部建築学科岡本教授から、北海道で人口減少が加速する中、コンパクトなまちづくりに取り組んでいる自治体の事例の説明があった。

また、北海学園大学と沼田町で取り組んでいる空家リノベーション活動では、町が所有する教員住宅などの空家を、北海道学園大学の学生と地元業者が協働してリノベーションを行った。リノベーションを行った空家は移住を希望する方の体験住宅として活用している。

住宅を所有する人の多くは、住宅の処分を子どもに相続して判断を任せたいと考えていることから、空家になる前に家族で協議することが重要である。

【質疑応答】

(小林委員) 沼田町での空家リノベーションは住民意見を反映しているのか。また、実際にリノベーション後の住宅に住んで何をするのか目的を教えてください。

(岡本教授) 移住体験のものであり、沼田町の魅力を知ってもらう場所として提供しており、実際に移住につながった例もある。住民が何を望んでいるかという視点は今後の課題だが、来年度以降の事業では他市町で民間空家をリノベーションすることから、行政と学生以外に視野を広げて事業を展開したい。

(福井委員) 町内への発信はどのように行っているのか。また、子供たちとも交流をもって、町を知る機会へとつなげてほしい。

(岡本教授) 発信はブログやSNS、YouTubeを活用している。町内の建築会社と内装会社から指導を受けており、一般住民との交流はあんどん祭りに参加する程度。幼稚園や小学校の学習の場として活動に参加してもらいたいと考えている。

②町内バス視察

ア 都市機能誘導区域

駅、役場、中央公民館、図書館、病院、体育施設の順に、都市機能誘導区域の視察をおこなった。

イ 芽室公園パークＰＦＩ事業箇所

事業箇所の前で魅力創造課の担当者から事業について説明を受けた。

ウ 市街化区域編入予定箇所

市街化区域編入予定箇所を現地で視察した。